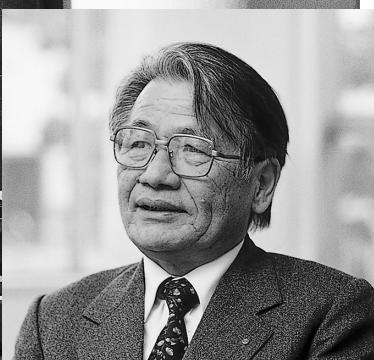


30th Anniversary



大学改革の現状

学長 大島俊三

同窓会の役員の皆様をはじめ、会員各位の御協力により本学も大きく発展してまいりました。衷心より感謝いたします。さて、本学は今年創立30周年を迎えて、一層の飛躍が求められています。18才人口の減少により、大学は大競争時代に突入します。本学の広報活動も幅広く、しかもきめ細かい展開をしております。平成12年度には一人でも多くの受験生を確保したいと願っています。今や大学は学生を『選抜』する立場から『選別』される時代となりました。大学に高等教育機関としての『価値』が備わっているかどうかが大学選抜の基準となります。具体的には「社会的イマージュ」「教育内容」「学生生活」「就職」の4つの指標で大学選びが行われます。

幸い本学はいわゆる「偏差値」による輪切りの基準ではなく、音楽、美術、デザインの分野に関心のある学生が学ぶ芸術大学です。本学は、芸術教育を通して、人権を重んじ、他人に優しい、しかも額に汗する勤労をいとわない人間教育を目指しています。もちろん個人の専門のスキルはこうした人間教育によって一層幅広いものになります。このことは長い目で見れば、社会が求めている人材であり、各々の人生設計においても有利に働きます。

名古屋芸大は今大きな転換期にあります。情報化、グローバル化の時代を迎えて時代は大きく変わりつつあります。この変化に対応した大学変革が求められています。私立大学の安定の基準はその財政基盤の安定にあり、これなくしてはどんな理想教育も実現しません。有能な教育者の育成や、外部からの確保は大学の質的向上に不可欠です。同時に大学の一定の規模の維持も不可欠です。平成12年度からは美術学部・デザイン科の入学定員を現在の210名から220名に増員します。また彫刻科の入学定員を25名から50名とします。それぞれの科には増員に見合った新しいコースが設置されます。音楽学部では声楽科の定員を30名から50名にぞ増員してミュージカルのコースを設置することになりました。すでに定員増を予定して外部から優秀な教員の採用も内定しております。

平成13年度には美術学部と音楽学部にそれぞれ新しい学科の新設も予定されています。時代の要請に応える規模拡大と内容充実を一挙に進めようとするものです。この改革に教員一体となって前進できる体制を現在模索しております。同窓生の皆様の御理解と御支援をお願いいたします。

2001年からのキャンパス計画

施設利用特別委員会委員長
マスタープラン計画会議座長
デザイン科 I D コース助教授 和田義行

1999年8月やっと今年度の前期日程が終わり、めまぐるしく変化する大学改革の内容に如何に対応するかを見据えながら、「新しい西春キャンパスのマスタープラン計画」も最終段階へと進みつつあります。

ここでこれからの中長期計画の内容について述べますと、現在美術学部にデザイン科がありますが、近い未来デザイン学部としてスタートし、美術学部／デザイン学部の2学部が西春の同一キャンパスに発足します。それを受けキャンパスの全体計画を進める中で新棟をどの位置に建設するかがまず問われ、地域計画研究所の協力を得て、エントランス、人の動き、現在使用中の建物との関係、キャンパス外の地域との関係、などを考慮し当初エントランスに位置する現石彫場へ高層でインパクトのあるビルを計画しましたが、今ある低層で広がりのある空間を壊すのと、A棟／K棟に近接することや将来の建て替えを考えてやはり運動場に計画することに決まりました。

新棟計画は低層3階建て1階に各工房群、新たにシュミレーション、キッチン、和室、茶室を配置、2階にデザイン学部の心臓部にあたる教員、事務機構、大学院、デジタル工房、研究室、ゼミ室を配置。3階は来年度より新たにスタートするライフスタイルブロックが入ります。中央は吹き抜けにして作品展示やデザインイベントのスペースを考慮した開放的な空間を計画しています。

改編の内容は彫刻科が彫塑／工芸／造形の3コースを持つ造形科に改編します。デザイン科は今までの9選択コースをメディア&コミュニケーションブロック／プロダクト&スペースブロック／クラフトブロック／に加えライフスタイルブロックを新設し、4ブロック制でスタートします。新棟建設計画は今年度建設計画を終え、来年度着工し平成13年3月完成という大変ハードなスケジュールで進んでいます。またB棟改修のあとG棟をこの夏休み期間中に改修しています。めまぐるしく変化するキャンパス、これはスタッフの知恵と努力で「これからの中長期計画のめざす方向」へ着実に進んでいる証と言えるでしょう。

卒業生のみなさまの温かい応援をよろしくお願ひいたします。



安部 悟 25歳 昭和48年生まれ 23期日本画卒業

プロボクシングのミニマム級世界ランカー、安部悟が12月にも世界タイトルに初挑戦する見通しとなった。所属する松田ジムでは既に世界戦用の会場を確保。着々と準備を進めている。

安部はミニマム級で世界ボクシング評議会(WBC)4位、世界ボクシング協会(WBA)5位にランクされるサウスポーのインファイト一戦績は22勝(9KO)2敗1分け。岐阜県多治見市出身。

松田ジムの松田鉱二会長は、今月25日(日本時間26日)にベネズエラで行われるWBA同級暫定王者ワンディー・シンワンチャー(タイ)陣営とも交渉を進め、好感触を得ている。

安部は「世界ランカーになって2年半。いい足固めができた」とチャンス到来を歓迎。松田会長はその会場として、12月4日に約4千万人を収容できる名古屋港区の稻永スポーツセンターを確保している。

前哨戦として安部は今月26日、名古屋国際会議場でフィリピン同級のリックス・パショネスと対戦し、世界戦に備える予定。

格下相手の負けられない一戦だが、安部は「圧倒的な強さを見せて勝ちたい」と決意も新た。厳しい練習を積みながら、世界戦決定の朗報を待っている。

1999年9月1日 中日新聞朝刊掲載記事

必が世界チャンピオンに
なりますので、応援よろしく
が願いします。
安部 悟
サイン



●試合結果

- 98年1月25日 3ラウンドKO
- 98年5月4日 2ラウンドKO
- 98年9月6日 ドロー
- 99年1月31日 5ラウンドKO
- 99年5月16日 1ラウンドKO
- 99年9月26日 前哨戦

横山 豊蘭 25歳 昭和48年生まれ 23期洋画卒業

いよいよ2000年が近付いて参りました。皆様におかれましては益々御健勝のことと御慶び申し上げます。

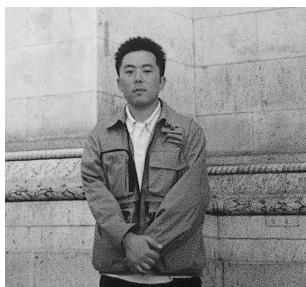
私が名古屋芸術大学を卒業して、はや4年の月日がたちました。卒業後上京し活動を続け、バルコの主催するアートコンペティション「アーバナート」に出品、大賞を受賞しました。それがきっかけで活動は全国に広がり、活動は広がり、日本中をピンボールの玉の様に飛び回りました。昨年から今年にかけてミシガン大学ギャラリーやニューヨークにある国連インターナショナルスクールでのパフォーマンスなど海外での活動を経験することができました。学生の頃とは状況は大きく変わりましたが、その変化の中で充実した日々を送っております。

去る7/7~8/2名古屋バルコギャラリーでの個展「礼」展を行いました。名古屋芸大にも後援していただきました。久々の名古屋での展覧会で多くの皆様に御来場頂きました。特に名古屋芸大での恩師の皆様、そして友人に再会できたことは大きな励みとなりました。学生時代、教授や友人と夜遅くまで語り合った事を思い出していました。皆様、そして故高木勲先生に御報告できた事を嬉しく思っております。有り難うございました。今後も御指導御叱正を宜しくお願い申し上げます。



横江栄一

18期日本画卒

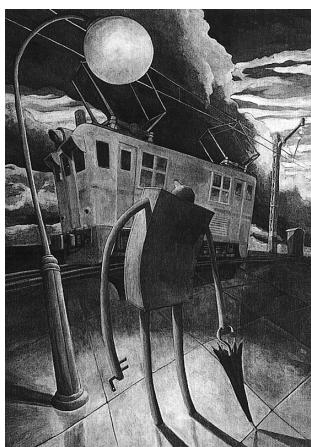


『パリに滞在して』
1999年4月2日、私は名古屋芸術大学が借りているパリのシテ・デザールのアトリエにやって来ました。新しい世紀に向けて私達がどんな形で芸術文化に後見できるか、又発展させていくべきかを日本の中だけで考えるのではなく、芸術国であり、移民が多い国でもあるフランス・パリに3ヶ月という短期間の滞在だが少しでも見つけ出せればと思いました。
私は常々思っていたことがあります。それは「日本語の作品を作らなければならぬ」と。それが日本人が世界に通用する1つの術ではないかと。写楽や北斎が通用したのも日本語の作品だからだと思います。丁度、私の滞在期間にジュ・ドゥ・ボーム国立美術館で具体美術協会の回顧展がありました。パリで見る具体的な作品は非常に日本語の作品であり、まさに本当の日本画と呼ぶに相応しい作品でした。またその作品は世界共通の言語を持ったものでした。パリの人々は大変興味深く見ていました。丁度、私の中にこの国の作品を見るといふに外國語の作品が多いことか、又その作品が片言であるかというのがよく判ります。今は情報も物も瞬時に伝わる時代です。世界も小さくなっています。
しかしこんな時代だからこそあらためて「この国の作品とはなにか?」と考えるべきではないかと思います。確かに外国文化はすばらしくカッコイイです。しかし日本人(東洋人)がしても猿のものまねにしかならないことをよく考へた方がいい。日本はまねの文化かもしれないがあまりにもそれだけになってしまった。もつと自国のアイデンティティを持って美しい国を伝えなければならないような気がします。名芸大がパリにアトリエを借りたことで私もそこに滞在できました。三十歳になつてからの滞在ですが、私にとつてはとても良かったと思います。

入学前から「マンガ家になる」と決めていた私は、けつしていい生徒ではなく、課題なんかは必要最小限しかやりませんでした。でもマンガ方面のやる気だけは満々で、大学の資料を使えそうなものがあると、写真やコピーを撮つたりしていました。(音楽学部の方まで行つて、楽器の写真を撮らせてもらつたりして……)。もともと私は絵画が嫌いで、留学生はしままうし、実は在学中から商業活動を始めていたので、まるで余裕がない毎日でした。先生方に「だつたら何でここにいるのか」と問われることもしばしば。悩んだこともありますが、命からがらでも卒業をされたということが(ちょっと大袈裟ですが)、小さな自信につながっています。今ではそういう過程が大事だったのだと思うからです。

現在私は「御園ざぼん」という若干ふざけたベンネームで描いています。我ながら人に言うのが恥ずかしい名前なのですが、このベンネームよりはましめな作品を描いてやろうというボーダーラインの意味があります。これを見る度毎回少しつつでもうまくなりたいと思うわけです。このベンネームとどこいどこいの作品では情けないですから。

仕事の内容はマンガと小説の挿し絵です。どっちの仕事も編集部の意のままに操られて絵を描いているような感じで精神的なストレスは思わず頭に糞をこしらえてしまうほど。自分が好きなことを描いて読者を満足させられるのは、よほどの才能と幸運がないと叶えられないのを肌で感じる毎日です。締め切り前には肉体的にも極限状態で、寝不足が何日も続き、一時的に記憶が錯乱したり視界が黄色くなったりして、なんでこんな目にあいながらマンガを描くのかと自問自答が続きます。それでもやつぱり行き着く答えは「好きだから」。少しでも読者に楽しさを感じてもらえる、自由なフィクションの世界を表現したくて、今はこの仕事を続けています。



平下陵子

23期日本画卒



私は、絵を描く事が非常に好きで幼い頃から美術の方面に進むことを望んでいましたが、なかなかその機会を得ることができませんでした。そして糸余曲折を経てなんとか美術大学に入學することができたのです。ですからこの際、じっくり腰を据えて芸術に取り組んでみようと思い大学院に進学を決め、現在名古屋芸術大学大学院美術研究科1年に在学しています。3月に学部の卒業式があつたものの環境が大きく変わったわけではありませんので大学を卒業したといった実感が余りないのが実情です。しかしその分、より専門的な知識を得ることのできる講義であつたり、作品の製作に集中することができ充実した日々を送ることができます。

おもに私は、自身の持つ街のイメージを作り出しています。それは私の記憶の中にある街の風景であり、また街の持つ記憶であるのかもしれないことをよく考へた方がいい。日本はまねの文化かもしれないがあまりにもそれだけになってしまった。もつと自国のアイデンティティーを持って美しい国を伝えなければならないような気がします。名芸大がパリにアトリエを借りたことで私もそこに滞在できました。三十歳になつてからの滞在ですが、私にとつてはとても良かったと思います。

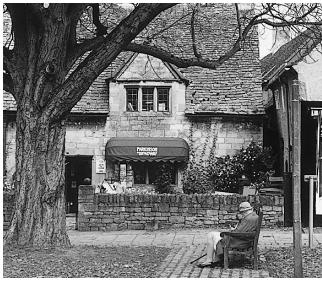
最近なんとか、個展や装画、挿し絵などの仕事をする機会を得ることができます。これからも作品を見ててくれる方、そして自分自身もよしり一層、楽しみ満足できるような作品を作りたいと思っていま

光文社カツバノベルス鯨統一郎『隕石誘拐』装画、カット、Robin discs 松谷草『Epoch/Platform』『Epoch2/Crimson』CDジャケット、未知谷 富川俊彦『八百目太郎』『叩かれ地蔵』『青い馬』『ウサギとカメ』装画、挿し絵などをやつています。

また2000年2月6日~14日、個展を開催(東京都中央区銀座7-5-15銀座蒲田ビル4F)します。よろしかつたら是非御覧下さい。

佐久間真人

26期洋画卒



イギリスにて感じたこと『BEER事情』

1998年4月16日～1999年3月20日

ファルマス (Falmouth) にて研修

今回の研修は、大学からの出張という形で実現した。研修の主目的は、イギリスの大学教育におけるファンデーションコースについてのリサーチでした。ファルマス芸術大学（ロンドンから列車で5時間かかる所）にて、そこは時間がゆっくりと流れ、1日が長く、特に5月～9月は午後10時位遅明るい場所でした。イギリスの特徴でもあるアンティックな街並。生活していた所は、自然を味方に生活している地方で住んでいた建物は150年位前のモノで、残念ながら床面が水平ではなかったが、目に映る景色が抜群に良く、物思いに深ける時間が充分にあった。仕事は午後5時には終わり、その後は家で食事を済ませてからバブでビールを。バブの充実。昼から夜12時位迄。ここでコミュニケーションが取られている。ファルマスには10ヶ所以上のバブがあり、置いてあるビールの種類もそれぞれの店により異なるものもあつたりしたが、ビールの美味しさは格別であった。

イギリスではビールの種類がラガーとビターに分かれている。ラガーは、日本の生ビールに似ている。そしてビターの味は濃く、カクテルでも入れることができるので、ほんの少し冷やした位のモノが美味しい。『ブリーズ・ギフ・ミー・ワン・ペイント・オブ・ザ・バス』と言うと、カウンター内の店の人が、アルミ製のビア樽からつながったポンプでワンペイント560cc位のグラスに注いでくれ、その場でお金を払い、自分の好きな所へ行って飲む。ファルマスの中でビールの種類が一番たくさん置いている所は、キー・サイドという所で、そこは写真の様に外で飲める。6月から9月迄は外で飲む人が多い。イギリス流……例えば、イギリスで3人の仲間で飲む時は、まず1杯目に（3人の）1人目が払う、2杯目に2人目が払う、そして3杯目は3人目が払うという順番で、次回も同様に順に行う。

バブには、ソフトドリンクも置いてあり、昼間なら子供でもOK。（但し、イギリスでは16歳迄が子供扱い）夜でも親、及び相当する大人が付いていれば、これもOK。大人は子供がある程度の年齢に達すると、社交の場に連れていく、慣れさせる。

それと食事。イギリスは食事が美味しいと言われているが、特に昼食……パブランチを食べると考えが変わらると思う。あと、夕食もバブを持っているレストランに行くと美味しいものが食べられる。ついでに食事の事だけで言うと、ロンドンではイング・イタリア料理、それと帰り際に食べたボルトガル料理は良かった。中華街の料理は店を選べば良いモノが食べられる。

岩井 義尚

5期彫刻科卒

佐々木 紀政

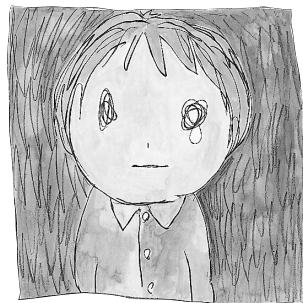
21期彫刻科卒

柴田 康志

23期デザイン科卒



自分はとてもラッキーだったように思う。もうすでに日本全国で活動しているグループの中に入れてもらつて、作品を売ることができたからだ。でも作家としてやっていくうと思った時、まず思ったことは地元の人達にも名前を知つてもらわないといけないということだったので、その土地で仕事をしていく以上、地元の公募展にはなるべく出品した。そうするとまず、その公募展に出している作家達が自分の作品を覚えてくれる。次にその公募展を見に来た人達が覚えてくれ、2回3回と出していると「作品はよく見られるけど、あなたが作ってたのか」と話しかけられるようになる。数回色々な人達から声を掛けられ、グループ展への出品依頼が入ってきた。木彫の仕事を始めて5年目、どこに行ってもだいたい自分が一番若手で作家としては子供同然。だが、生活のためには作品を作り、売つていかないといけない。自分が食べていくための作品はどうやらかといふと民芸調の木彫作品。最初に売った時はうれしさよりも恥ずかしさみたいなものがあった。自分では一生懸命作った作品だが、所詮グループの中ではお子様の作品。それでも一緒に仲間に入れてもらい、作品を売るチャンスを与えてもらえたのは、すごく運が良かつたとしか言い様がないのだが、作家として一番大切なのは作品を作り続けることだと思っているので、それが数年でもやり続けることが出来たということは、自分にとってすごい自信で、これからも作家として作品を作り続けることで腕を上げ、自信をつけ、少しでも上を目指せる作家になろうと思う。



現在フリーターをしながら絵を描いています。個展は卒業して一度もしていませんが、公募に作品を出しています。

96年第88回イラストレーションチョイスの公募で（横尾忠則の審査）入選しました。その後98年第8回新風社出版大賞をいただきました。僕は公募で絵本を出版大賞を出した。絵本の名前は『みかんちゃんとりんごちゃん』です。題名を聞くとみんなは、みかんとりんごに手足がくつづいたキャラクターを思い浮かべますが、人間の名前です。

この絵本は幼い頃の思い出をもとにした絵本です。僕は幼い頃、夜景のパズルが好きでした。そのパズルの中のビルの中の小さく赤く光る窓の中に、自分と同じ位の子供が家族とゴハンを食べているところを空想していました。僕がした空想を『みかんちゃん』にさせて、みかんちゃんがパズルの中に入りこみ、「りんごちゃん」に会いに行く話になっています。絵本は新風社から9月下旬に出る予定なので、よかつたら買ってみてください。

現在ヤンバルクに大きめの絵を描いています。これからは個展を開けるように頑張ります

今回、同窓会が後援を行った展覧会報告

この制度が作られて3年目になろうとしています。徐々に同窓生の中に浸透してきたようで、多くの方々から「依頼書」が届くようになりました。これからも、同窓生の各方面での活躍に期待したいものです。

● ARTISTS FILES 1998

1998年12月8日～13日：愛知芸術文化センターG・H

● 櫻井 昇二展（18期卒 櫻井昇二）

1999年5月11日～16日：カノーヴァン

● 穴（院3期卒 徳重道朗）

1999年5月29日～6月20日：art space dot

● illusion（21期卒 斎藤靖子）

1999年5月29日～6月20日：art space dot

● ギャラリープラネット洋画展（院3期卒 鈴木善晴 他3名）

1999年6月5日～13日：ギャラリープラネット

● CORNER THE ART（院2期卒 岩田栄一 他7名）

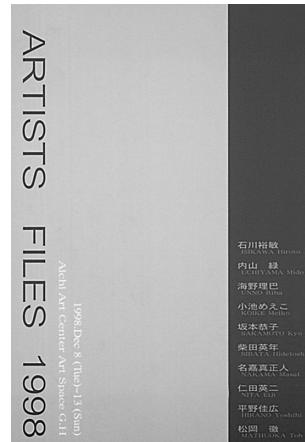
1999年7月19日～29日：名古屋芸術大学美術学部内ギャラリーBE・be

● モノクロームの湿度（25期卒 生川晴子 他6名）

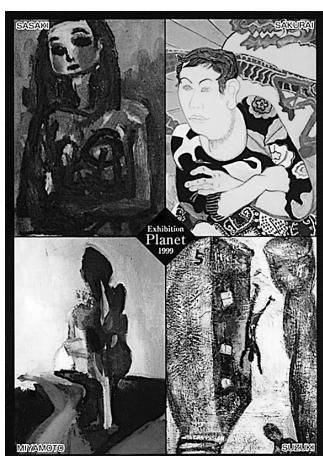
1999年7月20日～8月1日：名古屋市市政資料館第1展示室～第5展示室

● group COM展（2期卒 暮石立次 他9名）

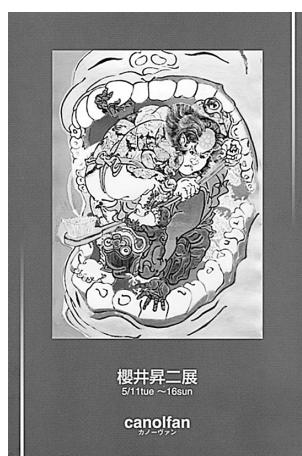
1999年8月26日～9月1日：ギャラリーチカシン



ARTISTS FILES 1998



ギャラリープラネット洋画展



櫻井 昇二展



illusion

作品展に於ける後援規約

名古屋芸術大学美術学部同窓生による個人又はグループの作品展に対して同窓会が後援する事により、同窓生の社会に於ける活動を支援する。

1. 資格

名芸大美術学部同窓生で会費を収めた者。

（グループ展の場合おおむね3割以上の同窓生で構成し、同窓生全員が会費納入者である事）

2. 後援金

個展・グループ展とも1回に二万円とし、年2回以上開催の作品展は年1回とする。但し、後援名使用は認める。

3. 手続き

イ) 会期3ヶ月前迄に後援依頼書を提出し同窓会役員会の審査を受ける。

ロ) 作品展終了後10日以内に、DM及び会場（作品）写真数点を添え報告書を提出する。尚、DM及び写真は資料にするため返却出来ませんので御了承ください。

4. 条件

イ) 作品展のDM・看板等に後援名「名古屋芸術大学美術学部同窓会」を明記する。

5. 問い合わせ

名古屋芸術大学美術学部事務局

TEL0568-24-0325

| 様式1 後援依頼 | |
|------------------------------|---|
| ○年○月○日 | |
| 名古屋芸術大学美術学部同窓会 会長 青木 高弘 殿 | |
| 第○期○○○科卒業 ○○○○○ 印 | |
| 下記の作品展について後援をお願いします。 | |
| 1) 名 称 | ○○○○展 |
| 2) 場 所 | ○○○ギャラリー (住所・電話番号) |
| 3) 会 期 | ○年○月○日～○年○月○日迄 |
| 4) 代表者(出品者) | 郵便番号・住所 ※氏 名 (第○期○○○科)・電話番号 注) ※印は出品者全員記入 |

| 様式2 報告書 | |
|------------------------------|---|
| ○年○月○日 | |
| 名古屋芸術大学美術学部同窓会 会長 青木 高弘 殿 | |
| 第○期○○○科卒業 ○○○○○ 印 | |
| 1) 名 称 | ○○○○展 |
| 2) 場 所 | ○○○ギャラリー (住所・電話番号) |
| 3) 会 期 | ○年○月○日～○年○月○日迄 |
| 4) 代表者(出品者) | 郵便番号・住所 ※氏 名 (第○期○○○科)・電話番号 注) ※印は出品者全員記入 |
| 5) 入場者数 | ○○名 |
| 6) 写真 | 写真○点添付致します。 以上作品展について報告致しますので後援金の支給をお願い致します。 振込先/○○銀行・○○支店・○○座・N o.○○ 住所・氏名(名義)・電話番号 |

BE・be ギャラリー情報

昨年リニューアルしたB棟（旧絵画棟）1階東側にギャラリーBE・beがオープンしているのを皆さん御存じですか？
制作可能なスタジオや情報スペース、デザインコレクション
スペースもあり、それらを一般に公開しています。
入場は無料ですので、一度足を運んでみられてはいかがでしょうか？



ギャラリーBE・be下半期予定

- 1999/9/25~10/8 壁の無いアート（OF THE WALL）
- 1999/10/2~10/8 I.T.M教員展
- 1999/10/9~10/22 明星大学一名古屋芸術大学版画交流展
- 1999/10/23~10/29 ギスマン展覧会
- 1999/10/30~11/12 名古屋芸術大学美術学部秋の企画展
[Radiant Occurrence～放射する出来事～]
- 1999/11/13~11/19 ビル・ビーチ展
- 1999/11/20~12/17 International Work-shop in Nagoya
Beyond the century
- 2000/1/11~1/21 「境界から見えるもの」展
- 2000/1/24~1/28 大学院2年論文審査試験・公開展示
- 2000/1/31 版画選択コース卒業制作展最終審査会
- 2000/2/21~2/25 大学院1年研究報告会・公開展示

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|-----|
| 評議員 | 評議員 | 評議員 | 評議員 | 評議員 | 評議員 | 評議員 | 評議員 | 評議員 | 評議員 | 評議員 | 評議員 | 評議員 | 評議員 | 監査委員 | 理事長 | 副会長 | 副会長 | 副会長 | 副会長 |
| 員 | 員 | 員 | 員 | 員 | 員 | 員 | 員 | 員 | 員 | 員 | 員 | 員 | 員 | (会計) | (会計) | (会計) | (会計) | (会計) | |
| (事務局長) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 | 期 |
| デ | 彫 | 彫 | 彫 | 彫 | 彫 | 彫 | 彫 | 彫 | 彫 | 彫 | 彫 | 彫 | 彫 | 彫 | 洋 | 洋 | 洋 | 洋 | 洋 |
| ザ | 刻 | 刻 | 刻 | 刻 | 刻 | 刻 | 画 | 画 | 画 | 画 | 画 | 画 | 画 | 画 | 画 | 画 | 画 | 画 | 画 |
| イ | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 | 本 |
| ン | サ | サ | サ | サ | サ | サ | サ | サ | サ | サ | サ | サ | サ | サ | サ | サ | サ | サ | サ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 八 | 塩 | 三 | 横 | 及 | 原 | 篠 | 三 | 神 | 百 | 加 | 高 | 鈴 | 藤 | 岡 | 大 | 片 | 山 | 川 | 福 | 鈴 | 杉 | 坪 | 村 | 尾 | 杉 | 金 | 岩 | 山 | 長 | 菅 | 山 | 岩 | 荒 | 杉 | 白 | 大 | 斎 | 芳 | 平 | 青 |
| 神 | 谷 | 枝 | 田 | 川 | 野 | 田 | 嶋 | 山 | 崎 | 藤 | 島 | 木 | 田 | 本 | 路 | 岡 | 本 | 田 | 岡 | 木 | 山 | 内 | 上 | 関 | 原 | 森 | 瀬 | 本 | 谷 | 原 | 田 | 木 | 浦 | 井 | 沢 | 藤 | 賀 | 田 | 木 | 川 |
| 川 | 真正 | 久 | 真 | 純 | 多 | 有 | 大 | 武 | 典 | 優 | 陽 | 善 | 摂 | 昌 | 宗 | 麻 | 直 | 英 | 正 | 淳 | 詩 | 朝 | 薰 | 美 | 夕 | 理 | 裕 | 洋 | 史 | 万 | 義 | 紀 | 尚 | 久 | 研 | 靖 | 基 | 隆 | 高 | |
| 子 | 弓 | 恵 | 美 | 也 | 香 | 里 | 也 | 之 | 絵 | 一 | 子 | 晴 | 子 | 規 | 紀 | 美 | 二 | 臣 | 子 | 乃 | 子 | 奈 | 子 | 惠 | 美 | 子 | み | 子 | 喜 | 尚 | 江 | 史 | 義 | 次 | 子 | 純 | 弘 | 弘 | 夫 | |

ご連絡下さい！

住所を卒業時の時から変更された方、
名字が変わられた方etc…より円滑な
同窓会誌発行の為にご連絡ください。
卒業期、科、氏名、住所、電話番号
をご記入の上、下記まで。

愛知県西春日井郡西春町徳重西沼65
〒481-0038
名古屋芸術大学美術学部同窓会事務局

NUAPRESSでは以上のお読みごたえのあるものにして、充実を謀りたいと思いますので、同窓生からの原稿や取材希望、同窓生への宣伝等、どんどん事務局宛にお送り下さい。
それでは10月31日同窓会総会・懇親会でお会いしましょう。

スタッフ一同

ご協力に感謝申し上げます。
今回誌面に掲載しましたとおり、名芸大も30周年を迎えることになりました。新しい棟も建設され、アトリエ、食堂、図書館等、様々な面で充実した大学に成長してきたようです。これから世纪に向けて、新コースの増設、大学改革も行われ、同窓生としても楽しみな大学となりました。それと共に、同窓会の方もより充実した活動を行つていけるように、今まで以上の同窓会参加、協力を改めてお願い申し上げます。